

空から牛も舞い降りる アメリカ中西部の竜巻

昔から、空から魚や蛙かえるが降ってきたという話は、世界中のあらゆる所に伝わっている。古くは、一世紀のローマの博物学者プリニウスが『自然史』に記録しているし、四世紀にはやはりローマのアテナイオスが『食卓の賢人たち』で、この種の事例を「魚奇談」として年代順に記述している（岩波文庫で訳が出ているが、残念ながら、この部分は抄訳である）。原因としては、さまざまな説があるが、現在もとても有力視されているのは、竜巻によるものである。

アメリカ・ミシシッピ川流域中部に発生する「トルネード」と呼ばれる巨大竜巻について、こんな実例がある。

一九六二年五月、アイオワ州をこのトルネードが襲い、それに巻き込まれた「ファウン」という雌牛が空中高く舞い上がった。

しかし、奇跡的に一キほど離れた他の牧場に無事に着陸した。

その牧場にはちょうど雄牛がいて、両者は仲良くなり、ファウンは子牛を産んだ。それから五年後の一月、またもや同地方に竜巻が発生した。

ファウンは牧草を食べていたが、再び竜巻に巻き込まれ、数十呎の高さまで飛び上がり、牧



場の人々の目の前でみごとに着地に成功した。

それ以後「空飛ぶ雌牛」の飼い主は、竜巻警報が出るたびにファウンを飛ばせないように閉じ込めたという。この名物牛は一九七四年の冬に死んだ。

ときには、すさまじい猛威をふるい、通り過ぎたあとに甚大な被害をもたらす竜巻である。

驚異的な威力をもつため中西部の住民はトルネードを非常に恐れ、「ストーム・セラー」または「サイクロン・セラー」と呼ばれる非難用の地下室を設け、災害に備えている家が数多く見られる。